

どっぷり高知旅 大月の魅力を最大限に活かせ

3月30日に大月町観光開きが行われ、大月の観光シーズンが幕を開きました。しかしながらこの大型連休は様々な要因から観光客の足が伸びておらず、観光事業者の皆様のご期待のような入れ込みではなかったのではないのでしょうか。高知県の本年度の観光キャンペーン『どっぷり高知旅』をたっぷり楽しんでもらうには、この連休は長期休暇のスケジュールを長くとりにくかったようにも思えます。ただ、観光シーズンはまだ始まったばかり。気温も水温も上昇していくにつれ、柏島ブルーの持つ魅力に多くの観光客が集まることに期待がふくらみます。本格的な観光シーズンに「極上の田舎、高知」のなかでも大月町で少しでも長い時間滞在していただくために、今からしっかり準備を行ってまいりましょう。また、らんまんの舞台である県央や仁淀川に視線が集まる一方、西部や柏島への注目が弱まっているのも事実。会員の皆様のご普段の発信や工夫も欠かせませんが、協会からの情報発信も質・量ともに上げていく必要を強く感じております。

夜桜音楽会例年以上の盛り上がり

大月の春の風物詩『月光桜』が今年もライトアップされ、多くの来訪者で賑わいました。3月30日(土)に長沢地区で行われた『夜桜音楽会』は、大月中学校吹奏楽部やバンドの演奏で盛り上がり、例年以上の来客で大月の春の宴の夜は盛況のうちに幕を下ろしました。

定例総会開催 協会へ期待の声大

5月14日(火)15時から大月町役場大会議室にて令和6年度通常総会が開催されました。総会では昨年度の本会計・特別会計の事業報告および予算案の可決が行われ、出張やイベントの報告と本年度の計画が共有されました。質疑応答では柏島までの観光客の交通の利便性向上に対する要望や、さらなる観光客の来町喚起に向けた広告展開の提案など様々な声があがり、観光協会や町の観光施策への期待を強く感じることとなりました。



竜ヶ浜キャンプ場通信



新型コロナウイルス感染症が5類感染症となり、行動制限が解除されて早くも1年となりました。竜ヶ浜キャンプ場は4月から今シーズンの営業を開始して、日に日にお客様の来場数が増えてきております。特に海外のお客様が来場されており、大月町などを観光されているようです。今シーズンはキャンペーンやイベントなどを開催予定ですので、ぜひ地元のみならず、ぜひお気軽にご来場ください。

新しい観光協会会員様のご紹介

本年度より以下にご紹介させていただく3件の会員様が変わりました。(加入順) 末永くよろしくお願いいたします。
○株式会社やまもも様 (姫ノ井/訪問介護)
○前向き屋様 (小才角/便利屋)
○海辺の自然史研究舎様 (周防形/その他体験)

「ウィンドファーム風のたより」は今回はお休みさせていただきます。

開放日につきましても現在調整・準備中ですので決まり次第協会HPなどでお伝えいたします。

ゴールデンウィーク来客数伸びず

コロナ第5類感染症移行後初の大型連休ということで、多くのお客様の来町が期待された本年のゴールデンウィークでしたが、想像を大きく下回る入りで、例年にはもっと賑やかであるはずの柏島の近辺もまばらな印象でした。考える理由としては、天候がなかなか読みづらく、直前まで雨予報であったことや平日が間に3日間挟まってしまったことで長期の旅行計画が立てづらく、高知まで来られても大月町までは足を伸ばしづらかったこと、そしてなにより直前に起こり宿毛市を中心に震度6の被害を出した地震によるキャンセルと風評による影響があったと思われる。

これから夏を迎えるにあたり、県のキャンペーン「どっぷり高知旅」に合わせた周遊促進や、大月町のさらなる認知度の向上を図るよう努めてまいります。

M^{ライオン}ダイビング大賞柏島2位W受賞!

去る4月4日〜6日の3日間、東京都池袋サンシャインシティで「マリンダイビングフェア（主催・マリンダイビングフェア実行委員会）」が開催され、全国から集まるダイバーたちから、「ダイビングの聖地柏島」に熱い視線が集まりました。この会場では、ウェブサイトで「マリンダイビングWEBユーザー数125万人」でのユーザー投票による「マリンダイビング大賞2023」が発表され、大月町柏島は「ベストダイビング国内部門」「初めて行きたい国内エリア部門」の2部門とも2位をダブル受賞しました。柏島を中心とした大月町のダイビング事業者からは、この勢いのまま、新規・リピーターともに来客を増加させて行こうという声がありました。観光協会としましては、もきめ細かな助力をしていきたいと考えています。



▶ 押してご確認ください

季節で魅力が変化する大月ガイド

多くが大堂海岸や柏島を案内することの多いガイド会ですが、季節に応じてツアー内容が変化するツアー会社の作成する旅行商品の中で企画サポートをさせていただき、いつもはやらない内容のガイドをすることもあります。春には大月名物の月光桜ライトアップにあわせ、大堂山展望台から観音岩の大堂ウォーキングの後、弘見地区の喫茶店での限定メニューを楽しんでいただくことができました。鉄道会社のツアーの場合、列車の始発時間に時間を合わせる必要がありますが、お昼に弘見地区でなにかないでしょうか、というリクエストにご提案させていただきました。結果的には大成功で、ガイドとしてもお客様とゆつくり会話ができて、アットホームで楽しい思い出ができました。ガイド会は新しい魅力もこれから作り、届けるお手伝いをしていきたいと考えています。興味ある方はぜひご一緒に！

ウェブ雑誌「旅色」でプラン提案

本年度より町の観光の取り組みとして、旬の女優が表紙や巻頭を飾る電子旅行雑誌の「旅色」とタイアップし、大月の魅力を発信していく計画です。掲載される媒体は市町村にフォーカスした「旅色 FOCAL」で、こちらの編集協力・提案を大月町観光協会がおもに担当し、町内の観光スポットをめぐるモデルコースなどの形で、読者層である20〜40代の女性層を中心に訴求していきます。



▲ 雑誌「旅色」表紙イメージ

大月むかし探訪へ2 道の話「月灘方面」

（口目塚〜才角〜小才角）

大月の少し昔の話をみなさんに思い出していただき、空想していただこうというシリーズの第二回は前回の「かいらさん」から南のエリア。この場では多くは語らないが、竜串から叶崎までも昭和終盤まで相当な難所だったが、海岸線が地形も入り組んでいるうえに高低差も激しく上下し、ジェットコースターのような道。小才角付近はその流れをうけ、台風が来れば高潮でたびたび冠水し通れなくなっていた。月山神社方面へと分岐する大浦分岐で太平洋に別れを告げ、そこから北はのどかな田園地帯で、迫ってくる山との輪郭線に沿って、弘見方面になだらかな長い坂道を登っていく。この地形が九十九折りになっていて、現在も多くの区間が通行可能な生活道として残っているが車一台が通るのがやっとな細さで、当時バスのような大型の車両では速度が出せずに迫ってくる障害物や脱輪にハラハラする事も多く、また当時は路面の起伏などの状況も現在のようにはなかっただろう。乗り物酔いに弱く者は、

